

自然観察NOW

№ 7

野幌森林公園自然情報

発行：2015年11月8日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

種子の不思議（知恵）木本

＜鳥を利用する＞

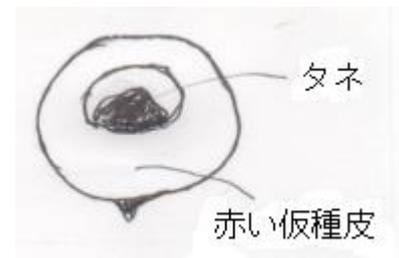
鳥の色覚は特に赤に敏感です。鳥ねらいの実には赤が多く、次に黒い実が多い。鳥専門の実には長く枝に残り香りはない。鳥はにおいに鈍感です。まずい実や有毒な実も多いがこれは一度に食べる量を制限して少しずつ広範囲にタネを運ばせようという植物の戦略なのです。

* ナナカマド

真っ赤で美しい実。9月頃から赤くなりますが11月頃からやっと野鳥が集まるようになり、1月ごろから特に多くやって来ます。果肉は青酸化合物のアミグダリンの他苦味の物質も多量に含んでいます。そのせいで鳥は少しずつしか食べません。そして少しずついろいろな場所に運んでいきます。やってくるのはレンジャク類、ヒヨドリ、ムクドリ、カラス類。街路樹でよく採食しています。

* イチイ

針葉樹の仲間だが松かきを作らず、おわんの形をした赤い仮種皮で鳥を誘います。この仮種皮はゼリー質で甘くて食べられます。でも中のタネはアルカロイドを含んで有毒です。ところがヤマガラだけはこのタネが好きです。よそに運んで土にうめて蓄え、それが芽を出すこともあるそうです。早い時期にはムクドリ、ツグミが来て、その後アトリなどがやって来ます。



* ヤドリギ

葉が落ちるとまるく繁るボールのようなものが落葉樹に付いているのをよく見かけます。ヤドリギは常緑低木の半寄生植物で雌雄異株です。黄色のまるい実がたくさん付いています。赤い実を付けるのはアカミヤドリギ。果肉は消化しにくい粘液質に富んでいて食べると糞もネバネバになります。11月頃熟しますが鳥が食べ始めるのは年明け頃から。食べるのはほとんどキレンジャクとヒレンジャク(北海道では数が少ない)。レンジャク類は実を食べて水を飲み、糞をしてまた食べる。粘る糞が枝に付着し、中のタネが寄生根を伸ばし新しい株に育ちます。

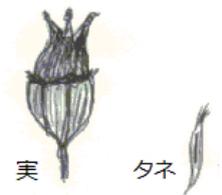
でも根を出して最初の葉を広げるまで約3年半かかるそうです。

<風を利用する>

これから冬にかけて野幌の森を歩いていると遊歩道沿いにノリウツギ、木にはい登りからみついているツルアジサイ、イワガラミが目につきます。装飾花は冬も残っていて目立ちますが、本物の実は小さく目立たない存在です。実は乾燥すると裂けてタネを風で飛ばします。タネはどれも微小ですがよく見ると小さな翼がついていて風散布のつくりになっています。

* ノリウツギ

ユキノシタ科アジサイ属の落葉低木（装飾花のガク片4枚まれに3-5枚も）。実は長楕円形で上から見ると宿存した花柱3の中央が開いています。真冬に花柄が下向きに折れてぶら下がっている（揺れてタネを飛ばしている）のが見られます。



* ツルアジサイ（ゴトウヅル）

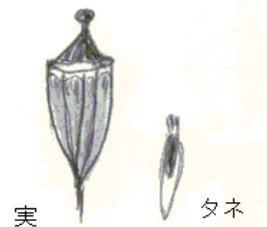
ユキノシタ科アジサイ属の落葉つる性木本。実は球形で花柱2が宿存していて中央が開いています。花がら(装飾花のガク片4枚)は冬に落ちると、雪の上を風で飛ばされてころがりながらタネを撒き散らしていると言われています。



* イワガラミ

ユキノシタ科イワガラミ属の落葉つる性木本。実は枯れて残った装飾花(ガク片1枚)とシャンデリアのように下向きに下がっています。実の蓋(花柱が合体したもの)になっている帽子が取れてタネを飛ばします。

参考図書 「野鳥と木の実」 叶内拓哉 文一総合出版
「原色日本植物図鑑」 北村四郎 村田源 保育社



<野幌森林公園情報>

森の中は葉がすっかり落ちて、明るく見通しが良くなり、木肌や冬芽も見やすくなりました。遊歩道は落ち葉がいっぱいです。

木の実 アサダ、サワシバ、ハリギリ、シラカンバ

ウダイカンバ、ツタウルシ、ナナカマド、ヤドリギ、ヌルデ、イワガラミ
ツルアジサイ、キタコブシ、ホオノキなど。

野鳥 コゲラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、シジュウカラ、ヒガラ、ヤマガラ、
ツグミ、カケス、キレンジャクなど。

(文責 菅美紀子)

11月と1月の観察会のご案内

西岡水源地自然観察会 11月23日(月) 10:00~12:30 西岡公園管理事務所前集合
円山登山観察会 1月17日(日) 10:00~12:30 円山八十八ヶ所登山口集合

